

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-154388

(P2000-154388A)

(43) 公開日 平成12年6月6日 (2000.6.6)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード [*] (参考)
C 1 0 G 11/05		C 1 0 G 11/05	
B 0 1 J 29/16		B 0 1 J 29/16	M
29/26		29/26	M
29/78		29/78	M
C 1 0 G 11/18		C 1 0 G 11/18	
審査請求 有 請求項の数20 O L 外国語出願 (全 78 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願平11-245105

(22) 出願日 平成11年8月31日 (1999.8.31)

(31) 優先権主張番号 09/144607

(32) 優先日 平成10年8月31日 (1998.8.31)

(33) 優先権主張国 米国 (US)

(71) 出願人 590001854

モービル・オイル・コーポレーション

MOBIL OIL CORPORATION

アメリカ合衆国22037-0001 パーシニア
州フェアファックス、ギャロウズ・ロード
3225番

(74) 代理人 100062144

弁理士 青山 燕 (外2名)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 流動接触分解におけるガソリン中の硫黄の低減

(57) 【要約】

【課題】 接触分解プロセスの液体クラッキング製品、特にクラッキングされたガソリンの硫黄含量を低減させる。

【解決手段】 接触分解プロセスの液体クラッキング製品、特にクラッキングされたガソリンの硫黄含量を、シーブの小孔構造の内部内に0よりも大きい酸化状態の金属を有する多孔性のモレキュラー・シーブを含む硫黄低減添加剤を用いて低減させる。モレキュラー・シーブは、通常、USYまたはゼオライト・ベータのような大きい孔寸法のゼオライト、またはZSM-5のような中間の小孔寸法のゼオライトである。金属は通常、周期表の第3周期の金属、好ましくは亜鉛またはバナジウムである。硫黄低減触媒は、独立した粒状添加剤の形態、または一体化されたクラッキング/硫黄低減触媒の成分の形態で使用してよい。